

1978.11.30

談話会通信 No.25

東京クモ談話会

通信内容

冬の観察・鈴木	2
多野市のかま・佐藤	3
くもをとりに行かれた	4
藏書目録	7

11月25日 東京……私にとって今秋初めての「しもの」の朝でした。クモも野外ではあまりうまくみつけられません。観察時の目の位置も次第に下にさがり、このところは吸虫管出口にくわえ、地べたをはうよななかこうです。……そんなに野外でみるものか?なかなか!と思ひ4年前の野帳をひっぱり出してみました。するといがいに発見することは多いようです。

12月6日(金) アオニグモ 体長5mm アズマネケサナミシノヘラ

フスレナグモ (日野よりもてぎだ)

モハタカニグモ 成体 死んでいる。スキの樹皮

ナガコガネグモの卵の子 ユッカランのところ。

ビジョオニグモ 8mm

こうして君えてみると、野帳をポケットにしほは“せ気がるにタトヘ”といつて行動力がこのごろないようです。さて…今年の冬はもうすこし外へ出てみるとしまはう。

新入会員の方・住所変更

東京農大第一高等学級 生物部

〒156 世田谷区桜3-33-1

鷹田 忠雄さん 〒280 千葉市高洲2-3-2-208

渡辺 修平さん 〒229 相模原市憲士見5-2-17

今回は上記3…1固体とお2人…名の方々が入会されました。これからこの会の活動に大いに参加するともに、11月3度の意見も聞かせてください。

三会合同例会 12月24日(日)

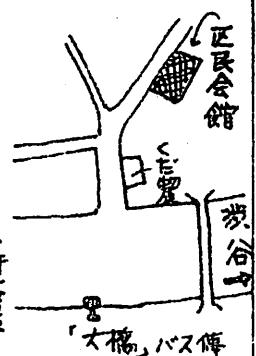
今年もまた三会合同例会をおこなう季節になってしまいました。
一年たつのほるいもので、また大橋1おいでください。講演も募集してあります。

場所 目黒大橋区民会館

日時 12月24日(日)午前10時~午後5時

昼食 各自分でごん配ください

会費 500円です。



※ 話人は 多足類懇談会の高野光男さんです。

問い合わせは談話会事務局で受け付けています。0423(21)0289(新海)



△ 6 鏡裏：日本映畫研究



△ 与野市大字大戸15番地のりモ

佐藤 幸子 エカリ

引越したのが「7月17日でしたが」、目に付いたのはシロウタケモ・コリサキモ・オニケモ・イヌニケモ・ヒラタケモ・オオヒメケモ・ハナケモ・カラキモモリケモ。

夏、EE木の上をウロウロ歩きました。このユカタアマシロウタケモの雄をみつけたので、家のシースンヒモをつけてみました。(以下家の内外を走った) ここで彼女をがんに大きづらうと、トドンファン)

7月 ユカタアマシロウタケモ

8・9月 ヒラタケモ・シロウタケモ・アズマキシタケモ
オニケモ・キシリエトロテカモ

10月 ネコハタケモ・コリサキモ

錦布の裏に一匹も見られなか、正ネコハタケモがとても多くて大よろこびです。けれど庭の西側の木に多く、それでツガイを作つておつりついています。庭の東側のツリジの木に下、下へ降りるのか理解に苦しみます。ピタヤリ今年からネコハタケモにとりつかれています。9月にウロウロして、アキニダケモは轢車良川娘をみつけたりしく、10月上旬 庭の片すみの芝草の間に母親ヒチゲモ達が仲良くしているのが見られました。

ハラギヒメケモ・ヒロハヒメケモ・ヤミロカニケモ・マミジロハエトリ・ミスジハエトリ・シラヒゲハエトリ・ネコハエトリ・オオビハエトリ・ミモリヤチケモ・タケシメケモ・シクモ・アリケモ・ツカバケモ、その他、も、ヒモ、ヒラモ、です。家のとなりの木の中には、卵のうを守つて、このりモが見られます。あまり近くで見かけません。ヒトニカクこの木の中に木の山のりモが生きているにちがいなことは、何がタイヤモドのようだ宝命となりに巻き起こして、み下川に心豊か(?)でたのしい毎日を送っています。

△ 昨から3年間入間地区科学教育振興展
覧会(郡農)に出品されたりモ

・りモの研究

所沢地区 柳瀬小4年 原口伸夫君

・りモの研究

入間地区 東金子小6年 高橋大志君

・りモの研究

狭山地区 田代山小6年 内海誠君

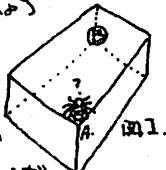
原口君の発表はりモの糸をまとめ、みつけていたりモの中にミズクモがいました。これは明らかに同定ちがひです。

高橋君は家の周りのりモをまとめ、その中のミズクモです。これがワスレナガモだ、たとうです。

(出品目標と田中理恵エ写)

△ No.23 p.2 のV-Y-Aの問題、解け方(2)。

りモには、たつもひでや、みまします。
まず、じがの上のりモは、どのよくな
状況におかれていますか? (図1)
りモから見える部分は…前と
見ると、自分が崖邊で、くべきじが
の上面でみえます。石下をみると、じが
の大さな側面が、また左下を見ると、崖の側面
がみえます。崖の距離が判別でき
るのは自分の立、立るところから見る各辺、すみ
ち。タテ・ヨコ・ルカサです。この状況から見えて、
対角線まで最も遠いところになります。



崖のへもなら、歩くじがの面は、2面だITで
いいことはめがかるでしょう。でもかいいりモはじがの
上面を対角線に沿って、すなむち、右辺の角を目指し
てすくみ、崖のBまでありますかもしません。しかし、
それは、崖のBまでありますかもしません。

りモが歩くべきレンガの面をとり出して巻き頭題を作りますと、図2のようにになります。上面の対角線

を延長して飛躍のようにいくと、やはり遠いところがめがかるます。最短は物語編、ABの直線です。(実験)、問題は、りモがこの直線をどうすれば"みまします"かといふことです。

りモがあかれどる状況は、
お邊の巻きをそれぞれa・b・cとします。
(図2)

「すこちゅ、たよ。」
「と、下り の下りが、」

「なーんだ。」

と言ふ。E.先生が車から30mぐらゐはないでい
いとき、た。みんな同じ方向へ行かないから、ばく
とゆき(友野裕之君)が「あしたがめを行、
たら、おくがまつてまづ、まづしてまづ、おくがまづ
のう」とさ。

「トリ」(カマシ)を見つけたぞ。」
と言ふ。ぼくはくやしか、E.ナガコがネグチが古
きいいた。(ナガコがネグチモー白川帝とつけた内閣
をほるりも) せなかをこすよと、がらがらゆめ。
E.君は、上り方からやまとをみる。それから、さ
わまと、すぐ上着ちゅうじをみた。そこには、トリ
フニタマンがいる。ぼくはいいた。のんこは人のをよど
り(たり)いた。車に乗る(みくる)り帰る。

家に帰る。正人(じやうじん)だった。のひで(け)じまつた。ぼくたちが
ゆまととき、うじむしの一本(いっぽん)と、遊んでいた。明
て君はひといじゆくしまつたから、おくとくんとぼく
だ。113.3な話をした。ぼくは。

「が、ぼくのが、ぼくのへー。」

みんな遊びごとにしたら、みんなぬれ、た。

ぼくは、みんなに

「歯を見せてやE.めだよ。」

と言ふ。下り、のんこが

「歯を見せてごらん。」

とか言って、小さく(うう)になつた。長嶋先生が、
「早くおなさい。」

と言ふ。ぼくとおくとのんこはが、(り)こつまつE.
のんこが。

「あせ、だよ。」

と言ふ。みんなあつた。夜中におくをあけていたら、
「ねまいんだから。」

と言ふ。蟲のあはをぱくぱく動かしていた。

(先生のいたりものひょうほんを見たつもり、た。)

オオミヨロウがモモいた。そのあすかすくいさ
が、た。一番始めはどこのあすか113がわから
ないが、た。(オオミヨロウがモー日本最大のアマゾン。
本の裏で113で5ヤニチほどなる。沖縄地
域にいる。あすかは小さく1ヤニチにもなりません。)
先生が、

「り帰るよう上、にもう整理13。」

と言ふ。もう帰るのかと思ふ。車に乗るE.また山の

中にはい、た。その場所は、ヒュタケモがた
さんいた。キノボリトタケモをさがして、先
生が巣を見つめた。

先生が、

「やばり、夜のほうかたく立つた。」

(草・樹を強きモノは巣開けりな)
と言ふ。巣もみまつなか、た。小さなクモも見
つかりなかた。ジエロウクモももしかりな
か、た。道がたくさんある。でも、オナガクモも
がたくさんいた。一番大きなのが、2セニチから3
セニチメートル(40cm)あつた。マネキクモもたくこん
いた。でも、子どもな、かりだ、た。このの多
いところには、ハイトリクモがたくさんで、もな
いといいた。自分の目の前にヤマシロオニギモの
子どもが来るので(113のど), ぼくはビックリして,
「うわー。」

と喜ぶ。それから前に行、たら、へんなりもみた
のがいたから、先生に

「なに? も。」

と聞こうとしたら、それは、ははE.た。先生の
子どもがやら、た。

そのときは、川マリモしか見つがらなかた。
帰りにすぐヒュタケモがたくさんいた。でも、かじ
た112、ヒリ112、3びきしかつかまらなかた。
そのうち、おくの方(か)、一番多くが、E.のへんに
リハゲモもたくさんいた。リハゲモは見つからな
いので、ザトウクジ(ザトウクジ - クモ)はちいさりも
(113)のかまきの(かまき)の(かまき)がいた。ゆきは、
このザトウクジの(かまき)をさとうひらと呼ぶ、た。
車に乗る、2席、2人、E.

* * * *

長嶋忠義さんの生徒が一説に高橋博葉や
山へ行、このことをクラスで通信「かざぐろ」
No.92(1978.10.12) No.93(1978.10.13) No.94
(1978.10.14)に載せたものです。()内の文は
先生が別に書いたメモです。文書の中にあ
りますが、(ア)は()内の文
(ア)は注章書き(あら書き)が、ここでは除きました。
別に(ア)はこのほか、コモリクモ・トゲクモ・
オオミヨロウクモ・オオヒツヅレクモなど
の; マネキクモ ザトウクジモの巣 タガコアシ
グモ・ヒタケモの巣 オナガクモ ザトウクジの巣を
つけています。もとの(ア)には長い間にかけて、(ア)
にあります。先生と忠義さんと書かれました。

談話室



佐藤翠子さんからいたおきまじ。
もう終りましましたが、この研究会は
カワハラツに活動してあります。

環境教育研究会大会案内

日 時 10月28日(土)午後1時より

場 所 東京学芸大学教育学部教育工学教室

交 通 中央線武藏小金井駅下車

北口より小平団地行(京王バス)に乗り、学芸大正門前下車

特別講演

環境教育について

根 本 順 吉(埼玉大学教養部)

地域主義と環境教育について

清 成 忠 男(法政大学経営学部)

一般講演

杉並区の真正クモ類と自然環境について

梅 林 力(杉並区東田小学校)

子供たちと環境—学校の中で—

林 四 郎(東京学芸大学付属世田谷小学校)

自然観察会におけるフィールドの使いかたについて

小 川 潔(東京大学理学部)ほか

雪谷小学校の学校緑化

古 市 守(大田区雪谷小学校)

連絡先 東京都小金井市貫井北町4-1-1

東京学芸大学教育学部第四部

環境教育研究会

Tel. 0423-25-2111 内線709

▷ 談話会蔵書目録

No. 112 人ビ自然 No. 6 (1978) pp. 1 - 48

有機農業と生き物 (1) (竹崎清一), インフォメーション ○
キシダイア 説介 (鷹田寛一), 「クモの会」発足のごあいさつ
(藤井悦子)

No. 113 HEPTATHELA Vol. 1 No. 1 (1978)

九州クモの会会誌 pp. 1 - 32

会誌刊行のことば (吉倉真), 対馬のクモー新記録並びに
スミの観察 (大熊千代子), オオトリノフンドマシヒトリノフンドマシタ
生活史 (木庭英), 南九州の洞窟産真正蜘蛛類 (1) (入江照雄)

No. 114 第6回3会合同例会講演要旨 (1977) pp. 1 - 4

コマダラヒメグモについて (鷹田寛一), 白鷺のクモ数種について (吉田成)
ツルグレン装置によるカニムシの抽出 (佐藤英久), 北海道ミズグモ調査隊
始末記 (新海崇一), 三窓島にかけた噴出年代の異なる溶岩上のサザナギニ科
について (高橋徹), ザトウムシの食性 (佐藤秀樹), イソシマジムカデ
ウタノ模様ヒヨリ生活史について (東原幸夫), フタヤステ属の生活史
(石井晴), 収穫法の異なる東洋ザクモの群集構造 (田見裕久)
クモの色彩体観察法について (松浦裕司), カンスゲをヒリまくクモ類
の量的の消長 (栗原輝代子)

No. 115 九州クモの会会報 (第4号) (1978) pp. 1 - 6

与論島だより (出来津子), ネコハエトリグモヒカラスハエトリグモ (吉田裕之)
九州クモの会総会 (木庭), 庚辰蜘蛛学会講本大会終る (黒塙),
事務局だより

No. 116 ATYPUS No. 72 (1978) pp. 1 - 46

コキハダカニグモの再記載 (小野辰嗣), 台湾のクモから (2) (吉田成)
ヒラタグモ類について (清水裕行), ツシマトリノフンドマシの網について
(牛井良芳範), 茅園にかけたクモ類相の研究 (第3報) (寺田・吉村・今西)
箕面市吹水申でみたクスレナガモ (加村隆美), クロガケジグモの飼育 (後藤在志)
箱根駒場附近の歩足類 (高野光男), 日本産カニムシ分布資料 (佐藤英文)
外國のクモの日本名 (庚辰蜘蛛学会)

No. 117 新海崇一 (1977) 住居内の土壤性クモ類 Edaphologia
(16): 26 - 34, pl. 1.



► KISHIDAI A

No. 44 の発行が編集局多忙のため遅れますのでご承知ください。なお編集局では協力してくれた方を募集いたします。

〒221

横浜市神奈川区
片倉町199

熊田憲一



► 54年度分の会費

通信24号よりお知らせいたしましたように54年度から会費が変わります。みな会計年度をかわりますのでまとめておきます。

会費：一般 2800 円

中・高生 2000 円

会計年度変更時期

昭和54年1月

から → 昭和55年3月
(15ヶ月になります。)

・振り込みの方 東京7-74885

・事務局

東京都国分寺市本多1-6-6

シンカイ写真食舎内 新海栄一

► 蔵書目録

コピーに応じますので必要の方は事務局まで連絡ください。

► 通信へと「うそ」

年賀状を書きかてら通信へも情報をあわせくなさい。

せわしない中にも「ほ」とするひとときがあることと思います。通信を出しおえ。私もほとしています。来年は通信も30号が出ます。どのような30号ができるかたのしみにしています。

次回の通信は
1月発行予定

よいよとして…

(田中)



東京クモ談話会

一通信25号一

1978年11月30日発行

本部

〒191 東京都日野市豊田1896

壇山島 泉方 TEL.0425(81)7128

発行責任(通信原稿受付)

〒190-12 東京都西多摩郡瑞穂町

武藏41

田中理恵 TEL.045(57)0353

会費 53年度 1500 円